

巻・頭・言

人口減少社会を乗り越える

人口減少社会の中で、生産性の向上が進まず、就業者の減少をカバーしきれなくなると、その産業は衰退すると言われています。

本道においても大半の産業や企業が直面している担い手不足という危機への対応の如何が、将来を左右すると言っても過言ではありません。

■賃金を上げて生産性の向上を目指す

在日イギリス人経営者であるデービッド・アドキンソン氏は、著書「新・生産性立国論」の中で「労働者激減は生産性改革を引き起こす」とし、労働力不足が顕著になると、企業間で労働者の奪い合いが起き、同時に労働者の立場が強くなり、給料と労働環境の良いところに労働者が集中するため、“付加価値”が高く、高い給与を出せる企業が絶対的に有利になると述べています。

■新たな付加価値を生み出す

“付加価値”すなわち企業の価値、生み出す利益のことですが、私がいま住んでいる後志(しりべし)地域で、“付加価値”を生み出すポテンシャルが高い産業のひとつが“観光”です。恵まれた自然環境とパウダースノーの魅力は言わずもがなで、充実した宿泊施設、地場の農産物、水産物のレベルの高さに加え、多種多様な酒類の生産、さらに近年、付加価値を一層高めてくれそうなのがアクティビティです。冬場に比べると集客力が弱かった夏場の観光で大きな付加価値を生み出してくれる可能性を秘めています。今後、新幹線、高規格道路など交通インフラの整備が進み、後志の観光産業は一層盛り上がるのが期待されますが、肝心なのは、こうし

天沼 宇雄(あまぬま たかお)

技術士
(建設/総合技術監理部門)

公益社団法人日本技術士会
北海道本部 社会活動委員会
北海道スタンダード研究委員会
代表



た観光産業が生み出す付加価値を地場の他の産業が享受し、さらにそこから新たな付加価値が派生し、持続的に発展する裾野が広い好循環をつくっていくことだと思います。

■地域産業の取組～農業を一例として～

地域にとって必要な産業や企業が、人口減少に負けずに安定的にその地域に存続し続けるためにはどのような取組が必要か。過去半世紀以上にわたって、担い手確保に苦しんできた本道の農業の歩みが参考になるのではないのでしょうか。

後志地域の農業は、比較的規模は小さい方かもしれませんが、収入は徐々に増え、経営も安定していると感じます。若い経営者や新規の参入も増え、将来への期待感が高まっていると感じます。

これは、これまで本道の農業が取り組んできた農作物の品種改良やブランド化、新規就農者育成総合対策といった国の担い手確保に向けた取組、生産基盤の大区画化、機械化、自動化など生産性の向上に向けた取組、さらには短期アルバイトの導入や海外からの技能実習生の受入、農業法人化など多様な経営形態による人材の確保など、官民団体等の関係者が連携しながら、粘り強く進めてきた様々な取組の成果だと思います。

■結言

産業の将来性が高まるとそこに参加したくなる人が増えます。地域に根ざした多くの産業や企業が、こうした本道農業のような取組を他山の石として先んじて進め、人口減少社会を乗り越えていくことを期待しています。